

肛門科診療のご案内 恥ずかしがらずに受診してください

高橋知子（大腸肛門病センター・医師）



「お気軽にどうぞ」高橋医師

ちに少しでも参考になり、受診のきっかけになっていただければ幸いです。

当科で扱っている疾患

いわゆる「いぼ痔、切れ痔、あな痔」といわれる痔疾患はもちろんですが、肛門周囲に起こる良性の病気（肛門の痒みや尖圭コンジローマなど）、悪性（多くが“がん”）の病気に対しても診療をしています。

痔核などで手術が必要な場合は、約1週間入院していただきます。1週間と聞くとたいいの方は「長い！」とおっしゃいますが、実際に手術が終わると「うまく排便できるかな？」「排便後は痛くないのかな？」等不安なことが多く、退院後に伺うと、1週間は手術後の不安を解決するのにちょうどよかった、とおっしゃいます。入院中は、毎日肛門科の医師の診察が受けられますし、病棟の看護師さんのやさしく決め細やかなアドバイスも受けられます。

大腸の病気では、大腸ファイバーを使用して大腸ポリープの切除（主に日帰り）も行っています。大腸がんに対しても最近手術件数が増加しており、適応があれば腹腔鏡下手術も積極的に行っております。

また当院の特徴の一つとして潰瘍性大腸炎やクローン病という炎症性腸疾患があります。こ

れは、大腸や小腸の良性の病気ですが、時に手術が必要なこともあります。消化器内科の先生方や看護師、管理栄養士、放射線技師等の協力のもと、診断→内科的治療→手術→手術後のフォロー等がスムーズに行なわれております。

大腸の良性の病気として多い便秘や便の漏れに対しても検査、治療にあたっております。比較的多い疾患にもかかわらず専門医が少ないのが現状ですが、当院では専用の検査日を用意して、その方の病状・原因を把握し、最良の治療ができるよう取り組んでおります。

その他に人工肛門を造設された方のためのストーマ外来を行っております（予約制）。WOC認定看護師が現在4名おり、毎日行っています。もちろん他院で手術を受けた方の受診も可能ですが、病状や手術の術式がわかるよう紹介状を持参された方がよろしいかと思います。

来院にあたってのお願い

初診の方はなるべく早く診療するようにしておりますが、日によって患者さまの病状が個々に違うため、かなりお待たせするかもしれません。また他のご病気がある方、投薬のある方（どんな病気でも）では病状がわかる紹介状やお薬手帳をご持参ください。現在のところ外来診療に当たっている医師は男性5名、女性2名です。HP（<http://www.coloproctologycenter.com/>）に担当日など載っていますので参照してください。



佐原力三郎センター長を中心に総勢11名のスタッフ